

 **KEIWA**  
COLLEGE REPORT

敬和学園大学と地域社会をつなぐコミュニケーション誌  
敬和カレッジレポート

**第100号** October 2023

発行/敬和学園大学後援会 敬和学園大学



## Close up

「敬和学園大学での32年の歩み」 第4代学長 山田耕太  
「敬和教育の継承と発展」 学長 金山愛子

卒業式・入学式のご報告  
退職教員・新任教員のごあいさつ

後援会総会のご報告  
授業紹介②「農福連携プロジェクト」趙晤衍  
敬和学園財務状況等のご報告



敬和学園高校との  
平和学習



皆さんとつくった  
千羽鶴を広島に  
届けます



沖縄キリスト教学院大学での平和研修

## サービslラーニング紹介② 平和のために今できること

「Keiwa Peace Project～祈り・つながり・希望～」では、学生たちが集まり、平和のために今の自分ができることを考え、行動しています。

敬和学園大学は、広島女学院大学と沖縄キリスト教学院大学と提携し、学生たちに平和学習の機会を提供しています。学生たちは、平和学習を通じて伝え聞いた戦争の事実と平和の尊さを同世代や次の世代に伝えるため、「折り鶴プロジェクト」「ウクライナ支援募金」などの活動を行っています。

## 誌面案内 Magazine Guide

### Close up

「敬和学園大学での32年の歩み」 第4代学長 山田耕太 ……	1
「敬和教育の継承と発展」 学長 金山愛子 ……	4
2022年度 卒業式のご報告 ……	6
山田耕太前学長に名誉教授授与 ……	6
2023年度 入学式のご報告 ……	7
まちづくりドラフト会議のご報告 ……	7
退職教員のごあいさつ グレゴリー・グッドマーカー先生 ……	8
柴沼晶子先生、サンフォード・ゴールドSTEIN先生追悼 ……	8,9
新任教員のごあいさつ 土居智典 教授、金歌晃 准教授 ……	9
2023年度 後援会総会のご報告 ……	10
授業紹介②「農福連携プロジェクト」 趙晤衍 教授 ……	11
同窓会リレー・エッセイ② ……	12
「就職して気づけた幸せと感謝」 藤原達矢 (2011年度卒業)	
敬和学園財務状況等のご報告 ……	14

〈表紙写真〉  
卒業式での板谷瞳さんによる答辞 (p.6)



# 敬和学園大学での三十二年の歩み

## ●無から有を創り出す

私が開学二年余り前に見た最初の敬和学園大学は、真っさらな何も無い更地でした。次に見た開学一年数か月前は、校舎建設の真っ最中で、建物に入ると真っ暗な中でヘルメットにライトをつけた大勢の作業員の方々が黙々と働いていました。それぞれ就任予定者のクリスマス顔合わせ会の折でした。

一九九一年の第一回入学式は、三二六人の新入生を迎えてS三一教室で行われました。新入生代表の近伸之氏（現豊栄キリスト教会牧師）があいさつで引用した太田俊雄初代高校校長の開校の祈り「もし敬和学園の教育が神の聖名を汚し、神の聖旨に背いて右や左に曲がるようなことがあったら、どうか神の御名のために学園をつぶしてください」が心に残っています。開学式式典後にニュートンのリンゴの苗木が植えられ、翌秋に新発田商工会青年部によって桜の苗木が植えられました。校舎は栄光館と尋真館、新発田館と聖籠館、オレンジホールのみでした。食堂が狭かったので、一九九三年三月にオレンジホール・アネックス（現ライニング commons）が増築されました。中教室と演習室を増やし図書館を広くするために、一九九七年にニューエル館が増築され、同時にパーム館（体育館）が新築されました。それまで体育の授業は新

発田市立第一中学校の旧体育館を使用していました。

北垣宗治初代学長（一九九一・二〇〇二年度）は、しばしば学生たちに「敬和が私をつくった。私が敬和をつくった。」と言える人になるようにと激励していました。この時代は今思えば何もない時代でしたが、文字どおり「無から有を創り出す」時代で、大変楽しい時でした。

北垣学長は「大学のあるまちづくり」のために新発田市・聖籠町の市長・町長、市・町議会関係者、商工会関係者らをノースウェスタン大学のあるアイオワ州オレンジ市その他の大学町に案内しました。その参加者たちから本学を支援するオレンジ会が発足されました。

一九九五年から、大学設置基準大綱化に合わせて一般教育の教員組織を解体して、国際文化学科と英語英米文学科に分離させました。また、「読む・書く・聴く・話す」のジャンル別・段階別の英語教育プログラム（KEEP）を編成し、一般教育を群別したカリキュラム改革を行いました。一九九五年一月に阪神・淡路大震災があり、有志が初めて被災地にボランティア活動に出かけました。国際ソープチミスト新潟から支援のため、Σ（シグマ）学生基金をいただきました。それは現在まで継続しています。

一九九四・九五年度に最初の自己点

## Close up

敬和学園大学 第4代学長  
山田耕太



検・評価報告書を作成し、一九九六年から『敬和カレッジ・ブックレット』を、一九九八年からチャペルニュース『ブニユーマ』を発行し始めました。また、二〇〇〇年には国連大使の小和田恆氏とドナルド・キーン氏による大学創立一〇周年記念特別講演会が行われました。

### ●三学科体制へ

二〇〇〇年前後から少子化に向かうばかりでなく、新潟市内や周辺で大学が相次いで新設され、短大が大学に昇格して、一九九九年から一つの学科の入学定員が割れ始め、翌年にはもう一つの学科の入学定員も割れ、その翌年には収容定員が割れ始めました。そこで、第一に教育理念を明確にするために、学則第一条に基づいた行動規範としてミツシヨソ・ステートメントを作成しました。第二に入試制度を改革してA〇入試と特待生制度を導入しました。第三に共同研究を盛んにするために二〇〇一年に人文社会科学研究所を開設しました。第四に二〇〇二年に大学基準協会の加盟判定を受けて、二〇〇三年から大学基準協会の正会員となりました。第五に将来構想委員会を立ち上げて、二〇〇四年度から従来の二学科から改組転換して国際文化学科（入学定員一〇〇人から八〇人に削減）と英語文化コミュニケーション学科（名称変更、入学定員一〇〇人から八〇人に削減）に共生社会学科（入学定員四〇人）を新設して三学科体制に変更しました。

新井明第二代学長（二〇〇三・二〇〇八年度）が就任されると「木を育てるように人を育てる」をモットーにし、新入生が木の成長を見ながら学ぶために入学式の直後にユリノキを植える植樹式を時計台の前で始めました。また、新井学長の時代から校門近くの桜が見事に開花し、二〇〇五年から毎年春先にはお花見をするようになりました。

また、新井学長は教員のサバティカル制度を導入すると共に、教職協働を唱え、学長選挙で教職員が対等に票を持つ制度にしました。中国・台湾の大学間交流にも積極的に、房先生と私も同行して協定書調印式にたびたび出かけました。

二〇〇四年七月の三条市水害、同年一〇月の中越地震の際にも、学生教職員が一丸となって被災地支援に出かけまし



開学の2年前（1989年12月）、  
敬和学園大学建設予定地を視察しました

た。私も学生と一緒に、三条では家の床下の泥出しをし、長岡では仮設住宅で洗濯機の設置などを手伝いました。

二〇〇五年の創立一五周年には三つの記念講演会を執り行い、記念絵葉書集を出し、『写真でつづる敬和学園大学一五年のあゆみ』と『卒業生名簿』を出版しました。また、まちなかの空き店舗を改修して新発田学研究センターを開設し、二〇〇八年には駅前通りにまちカフェ・りんくをオープンしました。

二〇〇八年に大学基準協会の審査で二〇〇三年に引き続き適合の判定を受けました。また大学所有地にボランティアー・実習施設を兼ねたグループホーム富塚・のぞみの里を開所しました。

### ●まちなかキャンパスへ

鈴木佳秀第三代学長時代（二〇〇九・二〇一四年度）は「誰かのために」をモットーに奉仕の精神を涵養することに力を入れました。二〇〇八年に本学で講演して指導を受けた私学事業団私学情報センター長の西井泰彦レポートに基づいて、二〇〇九年度から三年の短期目標、六年の中期目標、一二年の長期目標を立て、毎年その達成度を測る中長期計画（ロードマップ）達成度評価を始めました。長期目標は、本学のリベラルアーツ教育を支える三つの柱（キリスト教教育・国際理解教育・地域貢献教育）の中で、地域貢献に最も力を入れていく方針です。

二〇一一年三月には東日本大震災が起

催されています。

### ●実践するリベラルアーツ

私は長く教務部長や共生社会学科長を務めた後で、新井学長と鈴木学長の二二年間は学長補佐・副学長として学長を支え、第四代学長(二〇一五・二〇二二年度)として二期八年間務めてきました。本学のビジョンを考えると「まちと大学」が互いにウィン・ウィンの関係を持ちつつ、大学のみでなく、まちなかもキャンパス化していかなければなりません。そこで「地域学入門」も必修科目に加え、学料とコースの壁を越えた「ディプロマ・プログラム」の一つの科目群として、それは地域社会を理解するための「地域経営プログラム」の中にも含まれており、まちなかや周辺の地域社会での実践活動やインターシップなども単位化する仕組みが整えられています。

二〇一五年からさまざまな困難を抱えている学生を支援するために学生支援センターを設置し、医務室やカウンセリಂಗルームと連携して学生を支援しています。また大学基準協会の三回目の審査に適合しました。二〇一六年から新発田駅前前の新しいコンセプトの複合施設イクネスしばたとリンクした学生寮「向山寮」を開設しました。二〇二〇年度から二〇二二年度までの三年間は、コロナ禍の中でさまざまな活動が制限されてきましたが、同時にオンライン授業やオンライン会議など新たな手法も手に入れるこ

こり、多くの被災者の方々が新発田市や聖籠町にも避難してきて、ボランティアセンターを中心にして学生教職員が一体となってさまざまな形でボランティア活動が展開されていきました。また、二〇一〇年一〇月に創立二〇周年講演が催され、そこで北島万紀子作詞・大中恩作曲の敬和学園大学校歌が披露され、『敬和学園大学創立二〇周年記念誌』も発行されました。

また、二〇〇八年度から阿賀北地方を題材にし、新たな文学の書き手を発掘する、文学による地域貢献である「阿賀北ロマン賞」を地域社会の自治体や企業の協賛をいただきながら始めて、二〇一九年度まで二二回、会を重ねることができました。その後継として二〇二二年度から現在まで阿賀北ノベルジャムが毎年開



2005年より、毎年「お花見ランチ」を開催しています



創立30周年記念式典にて、池上彰氏に名誉文化博士号を授与しました

とができました。二〇二〇年一〇月にコロナ禍でささやかに創立三〇周年記念式典を行い、式辞を述べました。二〇二一年四月の新入生歓迎学術講演会では、コロナ禍で一年遅れて私の高校の同期生の池上彰氏が、二〇二一年の学園祭に引き続き講演し花を添えてくれました。二〇二二年に大学基準協会の四回目の審査に適合することができました。

これからの私は一昨年から責任を負わされている日本新約学会会長職に専念して、若手の研究者の育成と、学会として総力を挙げているNTJ新約聖書注解書シリーズ(日本基督教団出版局)の出版の業にも力を入れていきます。また、敬和学園の背景研究と深くかかわる新潟居留地研究会会長として、地域研究のささやかな営みを続けていきます。

## 敬和教育の継承と発展

### 敬和学園大学長 金山愛子



生や、お子さんを二人、三人と敬和に送ってくださるご家庭が増えています。保護者の方々や先生方から本学の教育に信頼を寄せていただけることは、本当にありがたいことです。人間を育てることには、やはりすばらしい仕事だと思いつつ同時に、その負託に応える責任もひしひしと感じます。そこで、本学の掲げる教育の三本の柱を中心に、敬和のリベラルアーツ教育について、私の考えを整理したいと思っています。

#### ●キリスト教教育

リベラルアーツ教育の成果は「人」です。本学では、神によって創られた人間はみな「等しく尊い」として一人ひとりの尊厳を守ることを大事にしています。このようなキリスト教の人間観に基づき、人権・共生・平和に重点を置いた教育を行っています。「キリスト教学」でキリスト教や聖書に親しむ一方で、毎週金曜日のチャペル・アッセンブリ・アワーでの礼拝と学内外の講師の講話の中で、どのように生きるか、学生生活をどのように送るか、私たちの住む町や世界はどのような美点と課題を持っているかなど、学生が深く広く考えられる時間を守っています。また、サークル活動では、敬和学園高校と共同で広島女学院大学などでの平和学習に参加する活動や、病院

でクリスマスを過ごす子どもたちに本を贈る市民を巻き込んだ活動など、キリスト教精神を支えられたものがあります。

本学を訪れるお客さまが、「敬和さんはキリスト教の学校のせいなのか、雰囲気が良いですね」とお褒めくださいます。創立時に持つことのできなかつた体育館（パーム館）で必死に練習を重ねてきたバドミントン部の選手が、今や全国レベルで活躍を見せています。この体育館と聖籠館の礎石には聖書が埋め込まれているのだそうです。知らずして「よき力に不思議に守られ」（ボンヘッファー）、誰もが人として尊重される雰囲気醸し出されているのであれば、これに勝る喜びはありません。

#### ●地域貢献教育

持続可能な社会の担い手育成のために、地域と連携した活動を展開しています。新発田市、聖籠町と包括的連携協定を結び、活動資金や活動場所の提供など大きなご支援をいただいております。さまざまなボランティア活動に加えて、最近は大規模なボランティア活動（サービスマーケティング）が盛んで、山田前学長が推進した「まちなかキャンパス化」が定着しつつあります。情報メディアのゼミでは地域の人々や場所取材し映像作品に仕上げて発信したり、阿賀北を舞台にした小説出版プロジェクトの運営をしたりします。ソーシャルビジネスを学ぶ学生が粟島でとれるアマドコロの六次産業

この春第五代学長に就任いたしました。開学から三二年も経ちますと、いろいろなところで卒業生との再会があります。新発田市や聖籠町の各種会議では、職員として活躍する卒業生と仕事をする機会があります。昨年デンマーク研修の手配をしてくれたのも、義父のレンタル車椅子を届けてくれたのも、卒業生でした。絵本製作やこども園での働きにより未来を担う子どもたちを育てる卒業生もいます。英語教員となった卒業生の教え子たちが敬和に入学してくれることもよくあります。南米の農園で働く卒業生にやっとうつことができた、彼らよりも一五年ほど後輩で同業の卒業生が教えてくれました。接点のない卒業生同士がつながることはうれしいことです。最近では、敬和学園高校の卒業生も含めて、親子二代で「敬和です」とおっしゃる卒業

化（アマドコロアイスは絶品です！）に挑戦したり、政策提言をする新発田市ドラフト会議に参加したりします。環境経済学のゼミでは佐渡で朱鷺の来るピオトープ作りをし、文化人類学を学ぶ学生はイスラーム教寺院で食事を共にし、これまで出合っただけだった文化や宗教を学びます。児童英語教育を学ぶ学生は公民館で子どもたちに英語を教えるなど、活動内容は実に多彩です。小さな大学としては盛りだくさんの地域活動を展開しています。実践するリベラルアーツの学びにより、教室では得られない経験を通して成長できると考えています。教職課程や社会福祉士養成課程に加えて、このような学生たちが将来地域でどんな働きをしてくれるか楽しみます。

### ●国際理解教育

本学は、開学時より海外留学が盛んで、新発田市はノースウェスタン大学所在地のアイオワ州オレンジ・シティと姉妹都市提携を結んでいます。新型コロナウイルス感染症の世界的まん延で留学を諦めざるを得ない時期が続きましたが、海外とつながる火種を灯し続けることができました。ワシントンD.C.にあるハーワード大学は、外務省が推進する「対日理解促進交流プログラム」カケハシ・プロジェクトの一環で行われる「カケハシ・イノウエ」プログラムに採択され、かつて本学主催のプログラムに参加された縁で、本学をパートナー校に選んでくださいま

した。今年の二、三月にはそれぞれ二〇名近い学生が互いの大学を訪問し、交流の時を持ちました。まさに、学生たちが平和を築く「架け橋」になってくれることが期待できるプロジェクトでした。この三年間にオンラインで中国やデンマークから発信される授業や国際理解講座を受けた学生もいます。黒龍江大学の長期留学オンラインプログラムを受けた学生を含む三人が、この夏、黒龍江大学に短期留学しました。デンマークのバアナゴッブ・ホイスコレには、オンライン授業を受けた学生の中から一〇名が昨年夏にデンマーク研修に出かけました。今夏は欧米や豪州も含め、留学が活発になりました。ウクライナの子どものためのオンライン授業のサポートを続けている学生もいます。

格安航空会社のピーチアヴィエーションの創始者は、会社の存在意義は「戦争をなくすこと」と語ったそうです。過去の不幸な戦争が起こってしまったのは、人々がお互いをよく知らなかったから。若い人には世界へ出かけて、さまざまな文化を体験してほしいとの願いから、格安で飛行機を飛ばしているそうです。留学が難しい時期にも諦めずにできることを模索したおかげで、世界のことを知る機会が完全に失われることはありませんでした。今後、学生が積極的に海外で学べるよう後押ししたいと思います。

### ●平和の器となる

リベラルアーツ教育は、偏見から解放されて精神が自由になることを目指した市民教育です。リベラルアーツでは諸科学・諸学問を関連づけて真理を探究します。直感や先入観で物事を決めようという思考の粘り強さと柔軟さ、視野の広さが問われているのです。また、自分自身の見方が偏っていないか、常にチエツクすることが求められます。私たちが言語や哲学や歴史や政治や福祉などさまざまな分野を学ぶのは、物事を多面的に考えるための知識や考え方を得るためです。地域や海外で活動するのは、視野を広げ、人々と共生する姿勢や手段を体得するためです。それがどうしても必要なか？たとえ小さな営みであっても、学生自身が誰かの幸せのために尽力する平和の器となるためです。平和は国家間の政治的問題だけではありません。一人ひとりの家庭において、大学や職場で、友達との間で、異なる宗教や文化を持つ人々の間で日々実現されるべきものです。

さらに今日的な問題としては、自然環境保護の問題やAIの適切な活用法の検討にも取り組まなければなりません。大学では学生の学修成果を可視化することで、大学教育の質を自ら保証することが求められています。これまでのようにユニークな改革を重ね、敬和に来て良かったと思ってもらえるよう、研究と教育に取り組んでまいります。小さいながら、堅固で自由な風の渡る大学であり続けたいと思います。

新しい社会人生活への旅立ち

## 二〇二二年度卒業式のご報告

二〇二二年度卒業式が聖籠町市民会館で行われました。コロナ禍では本学体育館を会場としておりましたが、四年ぶりに会場を戻しての開催となりました。

マスク着用を緩和しての実施とし、会場は晴れ着を着た卒業生と教職員の笑顔により、一段と華やかな雰囲気になりました。式典では、山田耕太学長から卒業生一人ひとりに「卒業証書・学位記」が手渡されました。

大学生生活の大半をコロナ禍で過ごし、苦しい思いと同時に、新しい生活様式の中での学びを共に実践してきた卒業生たちです。敬和学園大学のリベラルアーツ教育において培った確かな価値観で、それぞれが次の時代を創造してくれることを期待します。



卒業生たちから山田学長に感謝状が贈られました



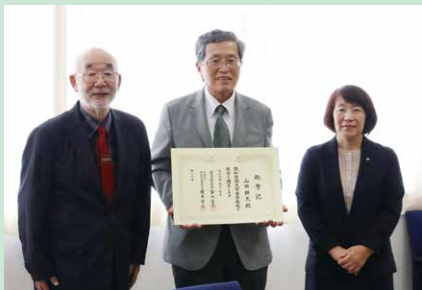
卒業生代表

板谷 瞳

私は、社会福祉士養成課程で社会福祉の理論と実践を学んできました。そこから学んだのは、多様な視点から物事の本質を捉えることの重要性です。四年間の学びを通じて、物事の背景に目を向け、それらを成り立たせている理由や意図を探る力を培うことができました。また、学びを深めることは、さまざまな意味で気づきを得るきっかけにもなりました。その気づきには、自分自身の偏見や考え方の傾向といった自分自身に対するものと、差別や権利擁護の視点から日常生活を見直すといった社会に対するもの二つがありました。所属したゼミでは、まちづくりについて実践的に取り組みました。地域の困りごとや課題について、地域の方と一緒に考え、その解決のために調査や取り組みを進めてきました。その中で、それぞれの立場を超えて地域とその未来のために行動することの価値に気づき、加えて、仲間と対話を重ね、協力して物事を成し遂げることの大切さも実感しました。卒業後は、大学生活で得た学びと経験を生かして、利用者さまの日々の生活をより充実したものにできるよう努めていきます。

## 山田耕太前学長に名誉教授授与

九月一四日の理事会で、山田耕太前学長に敬和学園大学名誉教授の称号が授与されました。山田先生は一九九一年に生まれた本学の礎を作り、三二年間にわたって尊い働きをしてくださいました。開学二〇周年にあたっては、作曲家の大中恩氏のもとに出向かれ、素敵な校歌を作っていただきました。二〇一五年に学長に就任されてからは「まちなかキャンパス化」の実現のため、学生寮「向山寮」を軌道に乗せ、学長裁量費によりサービスマーケティングを活性化してくださいました。先生が思い描いていた「愛と希望の溢れる学びの共同体」に向けて、みんなで協力して次のページへと進みたいと願っております。  
(学長 金山)



左から榎本理事長、山田名誉教授、金山学長



新入生と共に歩みをすすめる四年間がスタート

## 二〇二三年度入学式のご報告

二〇二三年度入学式は、卒業式同様、会場を本学体育館から新発田市民文化会館に戻して開催しました。

讃美歌斉唱、下田尾宗教部長による祈禱のあと、入学者一人ひとりの名前が読み上げられ、今年度就任した金山学長が入学者の入学許可を宣言しました。

学長からの式辞では、「これから大学生活を始める新入生に対し、「人と出会い、新しい知識や考え方を得、誰かのために身体を動かし、あるいは自然に関わることを通して、平和をつくり出す第一歩を歩みだしてください。」という激励を含めた温かいメッセージが贈られました。キリスト教に基づく人権・共生・平和に重点を置いた教育により、新入生と共に四年間の歩みを進めてまいります。



新入生代表による宣誓



新入生代表

山口のあ

私がこの大学に入学してから今までと違うと思ったことが三つあります。

一つ目は、どんなことも自分で情報を入手しなければならぬということ。ボランティアやサークル活動など知りたい情報は自分から掘みにかなければ何もわからないと学びました。大学ではまとまった自由な時間があるので、自身を見つめ直したいと考えています。

二つ目は、高校よりも外部とのつながりが強いことです。これは今までに出会わなかった考えの人と出会うよい機会だと思えます。私は出会った人からいるいるなものの見方を学び、多面的な考えを持って視野を広げると同時に、自分と違う思考を知ることによって自分を知らうと考えています。

最後に、この四年間は自分が本当に興味のあることを学べる最適な環境であるということ。高校生まではほとんどが必修科目でしたが、大学にはゼミやコース科目があります。専門分野を学び、それに対してすぐに質問できるといふ機会は大学以外にないと思います。これらの今しかできないことを成し遂げて丁寧に四年間を過ごしていきたいです。

## まちづくりドラフト会議のご報告

新発田市まちづくりドラフト会議 for Youth に堀野ゼミが参加し、「防災教育センター」の創設を提案しました。新発田市では近年、大きな災害が起きていないため災害に対する市民の危機意識が低下しているとの調査結果が出ています。そこで、市民の防災意識を高めるために、平常時から防災のことを学べる拠点を廃校を活用してつくるという提案をしました。提案にあたり、上越と中越にある防災教育センターを視察し、候補地である米倉地域の住民とのヒアリングを行いました。また、ジオラマや模型を作成し提案内容が視覚的に理解できるように工夫しました。今後よりよいまちづくり実践のためにさまざまな活動を続けていきます。(共生社会学科 堀野)



ジオラマを使って説明する学生たち

## 小さな大学ならではのやりがい



英文化コミュニケーション学科  
グレゴリー・ケッドマーカー

敬和学園大学で過ごした一二年間は、新潟の空を白鳥が飛びゆくようにあまりにも早く過ぎ去りました。ニューヨーク生まれの私は、人生の五分の一を新潟で過ごしたことになります。敬和学園大学の教員採用面接の日は、あまりの雪の多さで電車が止まり、大学で行われる予定だった面接が新潟市内で行われることになりました。そして新潟の住人として過ごした最後の冬、再び大雪に見舞われました。木々や山、田んぼに積もる輝く雪景色は、いつも私の心に元気を与えてくれました。

年齢を重ねるほど、季節やその移り変わり、目標や思い出に強い思いを感じるようになりました。新潟で暮らし、働き、遊び、教えた思い出は、これからの人生に持つていくどんな物質的なものよりも大切なものです。可能であるならば、私が敬和学園大学で触れ合った一人ひとりの学生や同僚の皆さんに個人的に感謝を伝えたいところですが、それをすれば、このコラムどころか、大きな一冊の本ができてしまいます。

代わりにいくつかの格別に心に残る思い出を記します。日本やタイ、ロシア、韓国、台湾で、学生たちが外国の若者たちと意見を交換し、経験を共有する姿を

見られたこと。学生たちと並び立ち、福島瀧で絶滅が危惧される動植物を守る活動をしたり、海岸清掃を行ったこと。学生たちから命の大切さを学んだこと。学生たちが批判的思考や言語のスキルを高度に成長させていく様子を見守れたこと。そして学生たちが私に対して、文化や環境問題、世界で起きていることに対して深い質問をしてくれたこと。

敬和学園大学のような小規模な大学ゆえに恵まれていると感じることは、教員が一人ひとりの学生たちと四年間を通じた交流ができる点です。一年次に英会話を教えていた学生が、数年後にまた私の別の授業を受講します。こうして恥ずかしがり屋のティーンエイジャーが、自信とスキルを身につけた大人へと変わっていくさまを目撃することができました。この過程で私の役割はささいなものでしたが、自分に誇りを与えてくれるものでした。教える仕事は本当にやりがいがありました。

今、私は新しい挑戦を始めます。子どものころから書くことと教えることが好きでした。教員として教材を作り、この二つを実現することができました。今後は新たな方法で自分を表現したいと考えています。私の新しい目標は、さまざまな主題で小説や詩、エッセイを書くことです。

皆さまのご健康とご多幸を心より願っております。

## 柴沼晶子先生追悼



一九九三〜二〇〇四年度まで敬和学園大学の教職課程の設置と充実に多大な貢献をなされ、イギリスの教育制度や英文学に造詣が深い柴沼晶子先生が本年三月二十九日に天に召されました。

学生と合宿に出かけたり、新しくできた聖籠中学校でのインターンシップの道を開くなど、ユニークな敬和の教職課程の教育をつくってくださいました。クリスマス前の四週間アドベントの季節になると敬和のクリスマスツリーが闇夜に光を放ちますが、このツリーは柴沼先生がご贈りくださったものです。「世の光」として「希望の光を照らし続けよ」との先生からのメッセージをしかと受け取り、敬和への貢献に感謝しつつ哀悼の意を捧げます。先生のキリスト者、教育者としての香りは私たちの中に残り続けます。柴沼先生ありがとうございました。(学長 金山)

## アジアと日本のローカルエリアを結ぶ



国際文化学科  
土居 智典

この四月から、生まれ育った九州を離れ、長崎から新潟に移り住むことになりました。こちらに赴任する直前に長崎の中国総領事館の方とお話ししたのですが、真つ先に「新潟にも総領事館がありますよ」と言われました。長崎と同じく、新潟も日米修好通商条約で開かれた五港の一つ。アジアからの関心も、確実に高くと感じました。

九州は、コロナ禍直後であっても、すでに中国・韓国からの観光客で溢れかえっていました。また、幼少期から街の案内表示にも中国語やハングル文字の表記があるのを日常的に目にしてきました。新潟では、中国や韓国との距離感が九州とは異なるようですが、いずれアジアとの交流も日増しに増えてくることでしょう。その時には九州とはまた異なる交流の在り方が生まれるのではという興味と同時に、そういった交流を今後担っていく人材を育てられることに、強い期待と責任を感じています。

自分の持っているアジア史研究の知識と中国語教育のスキルを最大限に生かして、人材育成に努めてまいります。どうか皆さまのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

## 歴史は現在と過去の終わりなき対話



国際文化学科  
金 耿一

「歴史とは、歴史家とその事実のあいだの相互作用の絶えまないプロセスであり、現在と過去のあいだの終わりのない対話なのです」(E・H・カー、近藤和彦訳『歴史とは何か 新版』岩波書店、二〇二二年、四三頁)。これは歴史学を志す人なら必ず読み、あるいは聞く有名な一文です。私も大学一年の時、歴史学の先生からこの本を読むよう勧められた思い出があります。

歴史の学び方には二つの形があります。一つはいま目の前にある問題の根源を過去へさかのぼる形です。もう一つは、過去の姿に出合うことを通して、いまを見つめ直す形です。どちらの場合にも、歴史認識は現在への問題意識と密接に関係します。

私たちがこの場所で、共に歴史を学ぶ意味は何だろうか。私はいま、そんなことを意識しながら日本近現代史を中心とする授業の仕方を模索しています。皆さんが自分の問題意識を持って歴史に向き合うことができるよう、少しでも多くの手がかりを提供したいと考えています。皆さんも、講義や演習で一緒に学んだ際には、いま思っていることを教えてください。よろしくお願いたします。

## サンフォード・ゴールドSTEIN先生追悼



一九九三〜一九九九年まで本学教授として、その後四年間客員教授としてアメリカ文学を教えてくださいましたサンフォード・M・ゴールドSTEIN先生が本年五月五日に天に召されました。

「敬和の学生の懸命な努力が敬和の評価につながる」とおっしゃる先生は、学生に厳しい(英語で言うdemanding)先生でしたが、ご自分で書き下ろした米文学史のテキストを用意され、授業も試験も英語。一五〇人もいる学生を一人ずつ研究室に呼んで詩の暗唱をさせるなど、懇切丁寧に指導しておられました。文学者であり歌人でもいらした先生は、与謝野晶子や石川啄木を紹介し、欧米では「英文短歌の父」として著名でした。学生を愛し鍛え、敬和の英語教育の礎を築いてくださったゴールドSTEIN先生、本当にありがとうございました。

(学長 金山)

## 二〇二三年度後援会総会の報告

四月六日、入学式終了後、「二〇二三年度後援会総会」を三年ぶりに対面で開催しました。顧問の金山学長よりごあいさつをいただいた後、議事に入りました。

小竹事務局長より二〇二二年度決算報告、次に田中理事から二〇二三年度事業計画ならびに予算(案)を説明し、皆さまの賛意のもと承認いただきました。

今年度も、学生たちが勉学にいそむ環境を整えるために、金山学長をはじめ教職員の方々と日ごろの学生たちの様子や保護者の皆さまからの要望をうかがいながら事業を運営してまいります。事業内容としまして、七月に就職に向けて三

年生保護者を対象とした「就職懇談会」、一月に一・二年生保護者を対象とした「保護者懇談会」、二月に企業関係者をお招きし、敬和教育の方針と理解を深めていただくための「企業との情報交換会」、二月には多くの企業を大学にお招きする「学内合同企業説明会」を開催し、就職委員会の教職員の皆さまと共に、学生たちの就職活動を支援してまいります。さらに充実した学生生活のために「学生団体」や「学園祭」の援助をはじめ、授業環境の整備にも支援いたします。

今後共ご理解とご協力をよろしく願います。  
(後援会長 五十嵐)

### 一般寄付者ご芳名

(二〇二三年八月三十一日現在、敬称略)

#### 〈一般〉

相澤和子、千葉眞、茅原明子、  
遠藤淳子、廣瀬圭太・恵子・智彰・愛未、  
池田五三雄、松澤郁子、中保正美、  
大西しげ子、佐伯ヒサエ、坂間昭、  
笹川寛、竹内孝浩、田村道子、  
山田園子、山際多美子、山下佳弘、  
安田光一、  
日本基督教団新井教会、  
日本基督教団東中通教会、  
日本基督教団東中通教会婦人会、  
一般社団法人BS社団、  
希望の園渡辺美穂、  
一般社団法人キリスト教学校教育同盟  
日本基督教団京都丸太町教会シオン会、  
日本基督教団見附教会、  
日本基督教団新潟地区教育部、  
日本基督教団新潟教会、  
日本基督教団新潟教会婦人会、  
新潟YWCA、  
日本基督教団新津教会、  
日本基督教団大宮教会、  
日本基督教団佐渡教会、  
新発田朝教会守弘士朗、  
しばた福音キリスト教会、  
日本同盟基督教団新発田キリスト教会、  
日本基督教団新発田教会

### ●収入の部

単位：円

科目	2022年度予算	2022年度決算	2023年度予算
後援会費	27,480,000	26,850,000	25,840,000
雑収入	1,000	39	100
学生団体より戻入れ金	200,000	1,171,217	200,000
収入小計	27,681,000	28,021,256	26,040,100
前年度繰越	13,059,957	13,059,957	8,173,056
収入の部合計	40,740,957	41,081,213	34,213,156

### ●支出の部

単位：円

科目	2022年度予算	2022年度決算	2023年度予算
事業活動費	6,050,000	3,554,273	7,670,000
会議費	200,000	65,411	200,000
事務費	30,000	30,000	30,000
通信費	2,080,000	903,594	1,180,000
印刷製本費	1,200,000	543,730	550,000
手数料	10,000	7,878	10,000
学生クラブ補助費	4,500,000	4,500,000	4,500,000
学生開放施設光熱費補助	700,000	700,000	1,000,000
学園祭補助費	3,500,000	3,500,000	4,000,000
体育施設設備費	4,502,375	4,502,375	4,502,375
その他の施設設備補助費	8,550,000	8,510,840	6,413,000
旅費交通費	100,000	57,000	100,000
雑費	400,000	33,056	400,000
予備費	2,918,582	0	1,657,781
部室棟修繕費積立金 (特別会計)	6,000,000	6,000,000	2,000,000
支出小計	40,740,957	32,908,157	34,213,156
次年度繰越金	0	8,173,056	0
支出の部合計	40,740,957	41,081,213	34,213,156

授業紹介② 「農福連携プロジェクト」 担当：趙晤行

## 農業の課題と就労の課題を解決する農福連携

趙ゼミでは、二〇二二年度より粟島や新発田市上三光を舞台に農福連携プロジェクトを進めています。農業従事者の高齢化による担い手不足や耕作放棄地の増加など農業が抱える課題に、例えば就労に課題を抱えている障がい者が協力することで、双方の課題解決に取り組むことができるのが農福連携の醍醐味です。趙ゼミではこのような考えのもと、粟島の特産品開発を目指したアマドコロを使ったミルクアイスやブレンドコーヒーなどの商品化（六次産業化）や、上三光での耕作放棄地を活用した豆やエゴマの栽培を、地域住民や福祉施設、高校などと連携しながら進めています。

（共生社会学科 趙）



エゴマの脱穀作業に参加する学生たち



共生社会学科四年

神田 侑菜

私は、アマドコロを使った商品開発に取り組んでいます。アマドコロとは、粟島に自生している植物で、韓国ではお茶や漢方薬として親しまれています。アマドコロを使った商品開発の活動は、これまで趙ゼミに所属していた先輩方から続いている取り組みで、二〇一九年にはアマドコロ・ミルクアイスの開発・商品化に成功しています。

私は、これに続く商品として、アマドコロ・ブレンドコーヒーの開発を進めています。二年生前期からさまざまなブレンド割合を試し、三年生前期で粟島地域住民の方々、そして、後期には敬和祭で趙ゼミ生以外の学生や一般のお客さまにも試飲していただくことができました。特に敬和祭では、試飲していただいたお客さまから「おいしい」とお褒めの言葉をいただいたことや、具体的な風味の感想をお聞きしたことで商品化に向けて大きく前進できました。この経験は、今後の開発活動に生かしていきたいと考えています。アマドコロコーヒーを商品化することで、粟島の地域活性化や障がい者雇用、農業と福祉を組み合わせた農福連携に貢献していきたいです。

〈卒業生・在学生・保護者〉

新田和子（一）、中野貴之（四）、  
佐藤浩雄（四）、山本恵嗣（二）、  
西山まどか（旧姓宮澤）（一四）、  
長谷川達也（二二）、前田涼（二八）、  
大倉裕二（二九）

〈学園関係〉

姜杰裕、金山愛子（二）、  
川村邦彦、清水明次、  
高加茂早苗、竹前篤、  
田邊昌邦（二）、山田耕太（二）、  
横山由美子、吉澤昭男、  
後援会（六）、オレンジ会（二）

（ ）内、漢数字は期生、算用数字は回数

皆さまからのご寄付は、学生生活の充実に活用させていただきます。

〈郵便振替口座〉

〇〇六三〇・九・一九八九六

敬和学園大学

本誌「敬和カレッジレポート」は、今号をもってホームページでの情報発信に移行させていただきます。

ご寄付につきましては、オンラインによる献金受け入れの準備をすすめています。詳細が決まりましたら、ホームページを通じてお知らせします。今後共、変わらぬご支援、どうぞよろしくお願います。



## 就職して気づけた幸せと感謝



二〇二一年度卒業  
藤原 達矢

敬和学園大学との出会いは、幸せと感謝の大きさに気づかせてくれた「人生最大のターニングポイント」です。現在、母校である敬和学園大学の職員として就職支援を担当しながら、バドミントン部のコーチを兼務しています。

大学時代は、バドミントンを中心に過ごしていたので、大会や遠征で大学行事には参加することができず、今思えば敬和の魅力に直接触れることが少なかったと思います。当時あったバドミントンサークルは勝つためのチームではなく、私が二年生の時に松浦進二監督が就任されたことをきっかけに今のバドミントン部が創部されました。当初は部員が三、四人と少なく、とてもチームとして全国優勝を目指す状態ではなかったため、先が見えず不安で、入学したことを後悔することもありました。そんな中、学長をはじめ教職員の皆さん、関係者の方々からの声援が私自身を支えてくれました。特にアドバイザーの富川先生からは息子のように可愛がってもらい、温かく見守ってくれたことは一生忘れません。社会人を四年経験した後に本学に入職

させていただき、就職支援と競技指導の二足のわらじを履いて今年で八年目を迎えました。学生時代には経験できなかった大学行事にも職員として参加し、あらためて敬和の人間教育の魅力を感じています。また、コーチとして責任と重圧に押し潰されそうな時もありましたが、「俺が責任をとるから、お前が思うようにやれ」と練習のすべてを任せてくれる松浦監督には感謝しています。

昨年、全日本学生バドミントン選手権にて、創部初となる男子団体五位入賞、男子シングルス三位入賞という結果となり素直にうれしく思います。与えられた環境の中で当たり前のように過ごせることへの感謝を忘れず、多くの方々から応援してもらえるチームづくりに日々精進していきます。



インカレ優勝を目指し、後輩たちを指導

## 学事予告

- ◆一〇月◆
  - 一日 総合型選抜(二期) 面談日①
  - 九日 ウィークデー・オープンキャンパス
  - 一五日 総合型選抜(二期) 面談日②
  - 二六日 ふれあいバラエティ
  - 二八日 敬和祭(二九日まで)
- ◆十一月◆
  - 進学相談会(二九日まで)
  - 一日 一・二年生保護者との懇談会
  - 二三日 学校推薦型選抜(二期)
  - ◆二月◆
    - 一日 クリスマスツリー点灯式
    - 六日 企業との情報交換会
    - 九日 総合型選抜(二期) 面談日①
    - 二四日 冬期休暇(一月三日まで)
    - 二六日 総合型選抜(二期) 面談日②
  - ◆一月◆
    - 一日 休業(創立記念日振替休日)
    - 四日 休業(創設記念日振替休日)
    - 五日 講義再開
    - 九日 卒業論文提出締切
    - 二三日 大学入学共通テスト(二四日まで)
    - 二七日 後期講義終了
    - ◆二月◆
      - 二九日 後期末試験(二月三日まで)
      - ◆三月◆
        - 四日 春期休暇(四月二日まで)
        - 学業特待生選抜(学力試験型二期)
        - 一般選抜(A日程)
        - 外国人留學生入学試験(二期)
        - 社会福祉士国家試験
      - 五日 後期集中講義①(九日まで)
      - 七日 総合型選抜(三期) 面談日①
      - 二三日 後期集中講義②(一七日まで)
      - 四日 総合型選抜(三期) 面談日②
      - 一九日 後期末追試験(二二日まで)
      - 二二日 後期集中講義③(二三日まで)
      - 二三日 学内合同企業説明会
      - 二六日 一般選抜(B日程)
      - ◆三月◆
        - 四日 再試験(五日まで)
        - 図書館蔵書点検(八日まで)
        - 九日 入学前スクリーニング
        - 一日 学業特待生選抜(学力試験型二期)
        - 一般選抜(C日程)
        - 外国人留學生入学試験(二期)
        - 二九日 学校推薦型選抜(二期)
        - 総合型選抜(四期) 面談日①②
        - 二二日 卒業式
        - 二三日 オープンキャンパス①
        - 三二日 学年終わり



## 敬和学園財務状況等のご報告

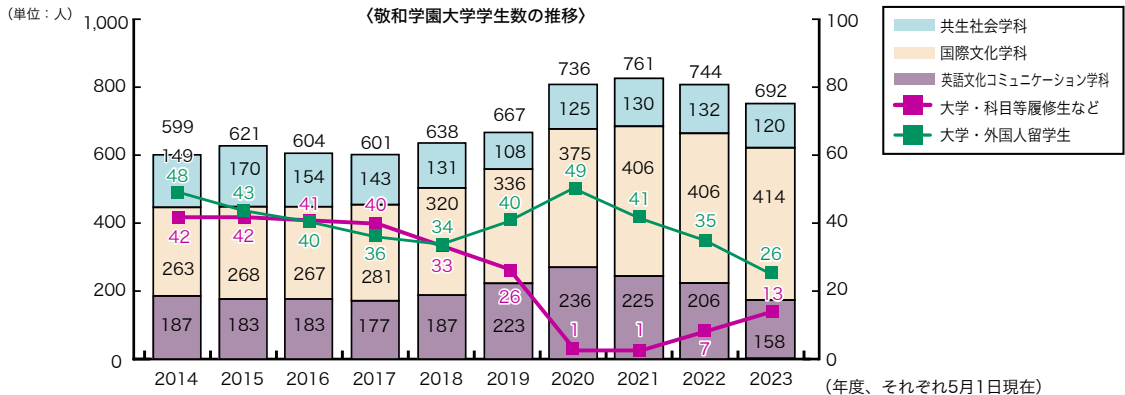
本学園の予算・決算は、法人本部・大学・高校の三部門で構成されています。紙面では、法人全体と大学部門の数値、大学部門の事業活動収支計算書のポイントのみを説明させていただきます。図表をご覧ください。詳細をお知りになりたい方は、敬和学園大学総務課までお問い合わせください。

### ●二〇二二年度事業報告

前年度に引き続きコロナ禍でしたが、教育研究活動や課外活動も感染防止対策を行い、制限がある中でも工夫を凝らすことで、これまで中止となっていた活動を徐々に再開することができました。

#### (一) 教学・学生支援

授業は対面形式を主体として柔軟かつ適切に実施し、学生への教育サービスを確保しました。四月の新入生オリエンテーションは学内で実施し、サークル紹介などの企画を通じ、新入生と上級生が親睦を図る時間を持てました。また、古代オリエント博物館館長の月本昭男氏による新入生歓迎公開学術講演会「旧約聖書の現代的意義」を開催しました。一〇月の敬和祭は、学外者を含め対面形式で実施すると共にオンライン配信もしました。七月と二月の二回、スポーツ大会が行われました。二月には入学予定者を対象とした入学前スクーリングを実施、入学式・卒業式などの行事も基本的に対面で実施しました。また海外留学が一部



### 〈2022年度オープンカレッジ〉

日程	演 題	講 師	参加者数
<b>新発田市オープンカレッジ (イクネスしばた)</b>			
10月18日(火)	忘れ去られたナチス機関誌『女性展望』から掘り起こす女性像	桑原ヒサ子 名誉教授	39
10月25日(火)	忘れられない新発田の人～山川丙三郎～	山田耕太 学長	29
<b>聖籠町キッズ・カレッジ (聖籠町市民会館)</b>			
7月 2日(土)	英語で遊ぼう! (その1)	大岩彩子 准教授、英語文化コミュニケーション学科学生	12
8月20日(土)	子ども陶芸教室 (型づくり)	趙晤衍 教授	24
9月 3日(土)	子ども陶芸教室 (絵付け)	趙晤衍 教授	24
10月29日(土)	英語で遊ぼう! (その2)	大岩彩子 准教授、英語文化コミュニケーション学科学生	中止
2月18日(土)	英語で遊ぼう! (その3)	大岩彩子 准教授、英語文化コミュニケーション学科学生	8
<b>その他</b>			
4月15日(金)	新入生歓迎公開学術講演会「旧約聖書の現代的意義」	月本昭男 古代オリエント博物館 館長	216
5月21日(土)	英検2級 一次・二次試験対策英語集中講座	大岩彩子 准教授	39
5月21日(土)	英検準2級 一次・二次試験対策英語集中講座	金山愛子 教授	26
9月17日(土)	英検2級 一次・二次試験対策英語集中講座	主演祐二 准教授	19
9月17日(土)	英検準2級 一次・二次試験対策英語集中講座	荒木陽子 准教授	28
3月19日(日)	「阿賀北ノベルジャム 2022」グランプリ授賞式	—	31



再開し、外務省主催カケハシ・プロジェクトでは、二月に本学学生一九名がアメリカに渡り、三月にはハーワード大学から一八名が本学を訪れて相互の国際交流を図りました。そのほか、八・九月にデンマークのパアナゴップ・ホイスコースレの一〇名が参加しました。

就職希望の学生を分母とした就職率は、九七・九％で前年比マイナス〇・二％、卒業生を分母とする就職者の割合が七五・二％で前年比プラス〇・五％となりました。キャリア教育として一年生後期の「自己理解ワーク」を三年ぶりに実施しました。二年生後期の授業科目「キャリア開発入門」はオンラインで実施しました。最終プレゼンテーションの日程を増やし、自分の考えを発表する時間をしっかりと取ることで、学生の満足度も高まりました。三年生を中心に実施しているインターンシップは、受け入れ企業が増え、参加者数もコロナ禍前の水準に戻りました。三年生保護者との懇談会、企業との就職懇談会、学内合同企業説明会などの学内イベントは、前年度同様、コロナ禍に対応した方法で実施しました。

●二〇二二年度決算  
当年度収支差額は一億三九四万円の支出超過、基本金組入前当年度収支差額も

2022年度資金収支計算書および2023年度予算書（学校法人 敬和学園）

(収入の部)

(単位：円)

科 目	2022年度決算額	2023年度予算額	差 異
学生生徒等納付金収入	1,049,389,587	1,038,472,000	10,917,587
手数料収入	17,222,875	17,101,000	121,875
寄付金収入	36,794,889	35,095,000	1,699,889
補助金収入	447,196,878	434,750,000	12,446,878
（国庫補助金収入）	179,992,205	167,150,000	12,842,205
（地方公共団体補助金収入）	267,204,673	267,600,000	△ 395,327
資産売却収入	55,839,794	1,000,000	54,839,794
付随事業・収益事業収入	36,810,942	43,989,000	△ 7,178,058
受取利息・配当金収入	590,380	578,000	12,380
雑収入	55,292,340	63,488,000	△ 8,195,660
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	220,215,700	216,900,000	3,315,700
その他の収入	77,094,297	64,301,000	12,793,297
資金収入調整勘定	△ 283,249,113	△ 282,573,000	△ 676,113
前年度繰越支払資金	1,475,502,169	1,395,665,392	79,836,777
収入の部合計	3,188,700,738	3,028,766,392	159,934,346

(支出の部)

(単位：円)

科 目	2022年度決算額	2023年度予算額	差 異
人件費支出	1,068,334,923	1,061,987,000	6,347,923
教育研究経費支出	422,486,502	413,218,000	9,268,502
管理経費支出	159,492,991	170,209,000	△ 10,716,009
借入金等利息支出	1,656,125	1,483,000	173,125
借入金等返済支出	12,971,395	12,118,000	853,395
施設関係支出	33,888,439	30,021,000	3,867,439
設備関係支出	63,447,073	36,326,000	27,121,073
資産運用支出	7,427,779	7,394,000	33,779
その他の支出	114,528,487	70,382,000	44,146,487
予備費	0	2,000,000	△ 2,000,000
資金支出調整勘定	△ 73,178,844	△ 129,352,000	56,173,156
翌年度繰越支払資金	1,377,645,868	1,352,980,392	24,665,476
支出の部合計	3,188,700,738	3,028,766,392	159,934,346

(2022年度(令和4年度)決算 事業活動収支計算書関係比率)

※比率の高低の評価は次のとおり。

△高い値がよい ▼低い値がよい ～どちらともいえない

(%)

比率名	算出方法	法人全体	大 学
人件費比率	人 件 費	65.8	57.7
▼	経 常 収 入		
人件費依存率	人 件 費	102.1	77.6
▼	学生生徒等納付金		
教育研究経費比率	教育研究経費	32.9	39.2
△	経 常 収 入		
管理経費比率	管 理 経 費	12.3	10.6
▼	経 常 収 入		
借入金等利息比率	借入金等利息	0.1	0.0
▼	経 常 収 入		
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	-10.4	-6.4
△	事業活動収入		
基本金組入後収支比率	事業活動支出	116.8	110.7
▼	事業活動収入－基本金組入額		
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	64.4	74.4
～	経 常 収 入		
寄付金比率	寄 付 金	2.3	2.7
△	事業活動収入		
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金	1.7	1.7
△	経 常 収 入		
補助金比率	補 助 金	27.2	18.9
△	事業活動収入		
経常補助金比率	教育活動収支の補助金	27.1	18.8
△	経 常 収 入		
基本金組入率	基本金組入額	5.4	3.9
△	事業活動収入		
減価償却額比率	減 価 償 却 額	8.6	6.1
～	経 常 支 出		
経常収支差額比率	経常収支差額	-11.2	-7.6
△	経 常 収 入		
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額	-11.1	-7.6
△	教育活動収入計		

六、四七八万円の支出超過となりまし  
た。いずれも当初予算を大幅に上回る支  
出超過ですが、これは学納金収入が予算  
を下回ったことと、予算外の退職者によ  
り人件費支出が増えたことが主な要因で  
す。活動ごとの収支では、教育活動収支  
差額は七、五六六万円の支出超過、教育  
活動外収支差額は六万円の収入超過、特  
別収支差額は一、〇八一万円の収入超過  
となりました。収入面では、経常費補助  
金、寄付金、退職金団体交付金が増額  
となりましたが、学納金、付随事業収入  
が減額となり、収入総額は当初予算より  
一、二四二万円の減額でした。支出面  
は、中期計画に基づく施設設備改修工  
事などで六、八四九万円の修繕費を計上  
し、また感染症対策として除菌等清掃費  
や学バス増便費など合計二、二一三万円  
を計上しました。経費削減に努めました  
が、人件費や光熱水費などの支出が増え  
たこともあり、支出総額は当初予算より  
四、六〇七万円の増額となりました。施  
設設備では、図書館システム入れ替え、  
貸出用ノートパソコン三〇台、エレベ  
ーターリニューアル、ラーニングコン  
モンズ照明LED化など、後援会からの支援も  
受けて計画どおり実施しました。また補  
助金によるトイレバリアフリー化工事  
を行い、学内のバリアフリー化を進めま  
した。

## 〈2022年度貸借対照表〉

2023年3月31日現在  
〈学校法人 敬和学園〉

(単位：円)

科目	年度	科目	年度
	2022年度末		2022年度末
固定資産	3,640,062,952	固定負債	389,444,345
有形固定資産	3,527,577,334	長期借入金	99,744,589
土地	693,935,764	退職給与引当金	278,813,208
建物	2,194,096,980	長期未払金	10,886,548
構築物	14,582,586	流動負債	330,426,830
教育研究用機器備品	69,915,234	短期借入金	12,118,182
管理用機器備品	54,063,382	未払金	75,570,262
図書	496,627,369	前受金	220,215,700
車輛	4,356,019	修養会預り金	6,231,138
特定資産	21,605,326	預り金	15,832,548
退職給与引当特定資産	17,350,000	仮受金	459,000
施設拡充引当特定資産	4,255,326	負債の部合計	719,871,175
その他の固定資産	90,880,292	基本金	8,652,494,432
電話加入権	1,072,992	第1号 基本金	8,532,494,432
施設利用権	45,334	第4号 基本金	120,000,000
ソフトウェア	19	繰越収支差額	△4,004,462,598
有価証券	52,332,207	翌年度繰越収支差額	△4,004,462,598
長期貸付金	590,000	純資産の部合計	4,648,031,834
出資金	1,926,500		
長期預け金	34,913,240		
流動資産	1,727,840,057		
現金預金	1,377,645,868		
未収入金	64,696,513		
有価証券	281,255,781		
前払金	2,551,830		
立替金	218,374		
仮払金	1,471,691		
資産の部合計	5,367,903,009	負債及び純資産の部合計	5,367,903,009

## 2022年度事業活動収支計算書および2023年度同予算書(学校法人 敬和学園)

(単位：円)

	2022年度決算額	2023年度予算額	差 異
	収入	1,049,389,587	1,038,472,000
学生生徒等納付金	17,222,875	17,101,000	121,875
手数料	27,953,454	28,429,000	△ 475,546
寄付金	442,040,878	434,750,000	7,290,878
経常費等補助金	36,810,942	43,989,000	△ 7,178,058
付随事業収入	55,080,585	63,488,000	△ 8,407,415
雑収入	1,628,498,321	1,626,229,000	2,269,321
教育活動収入計	1,071,812,171	1,062,322,000	9,490,171
人件費	536,040,526	523,657,000	12,383,526
教育研究経費	201,133,533	220,096,000	△ 18,962,467
管理経費	496,560	0	496,560
徴収不能額等	1,809,482,790	1,806,075,000	3,407,790
教育活動支出計	△ 180,984,469	△ 179,846,000	△ 1,138,469
教育活動収支差額	△ 180,984,469	△ 179,846,000	△ 1,138,469
収入	590,380	578,000	12,380
受取利息・配当金	995	0	995
その他の教育活動外収入	591,375	578,000	13,375
教育活動外収入計	1,656,125	1,483,000	173,125
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	1,656,125	1,483,000	173,125
教育活動外支出計	△ 1,064,750	△ 905,000	△ 159,750
教育活動外収支差額	△ 182,049,219	△ 180,751,000	△ 1,298,219
経常収支差額	△ 182,049,219	△ 180,751,000	△ 1,298,219
収入	238,913	0	238,913
資産売却差額	15,877,107	7,166,000	8,711,107
その他の特別収入	16,116,020	7,166,000	8,950,020
特別収入計	5,547,331	535,000	5,012,331
資産処分差額	0	0	0
その他の特別支出	5,547,331	535,000	5,012,331
特別支出計	10,568,689	6,631,000	3,937,689
特別収支差額	0	2,000,000	△ 2,000,000
(予備費)	△ 171,480,530	△ 176,120,000	4,639,470
基本金組入前当年度収支差額	△ 89,537,665	△ 80,877,000	△ 8,660,665
基本金組入額合計	△ 261,018,195	△ 256,997,000	△ 4,021,195
当年度収支差額	△ 3,743,444,403	△ 4,026,477,606	283,033,203
前年度繰越収支差額	△ 4,004,462,598	△ 4,283,474,606	279,012,008
翌年度繰越収支差額			
(参考)			
事業活動収入計	1,645,205,716	1,633,973,000	11,232,716
事業活動支出計	1,816,686,246	1,810,093,000	6,593,246

●二〇二三年度当初予算

当年度収支差額は一億二、三〇四万円の支出超過、基本金組入前当年度収支差額も八、五六五万円の支出超過となりました。本年度も中期計画に基づく大規模修繕を予定しているため支出超過の見通しです。活動ごとの収支では、教育活動収支差額は八、九三七万円の支出超過、教育活動外収支差額は五万円の収入超過、特別収支差額は五六六万円の収入超過となりました。収入は、予算学生数の減少により学納金が減収となり、前年度に退職金団体交付金を計上したこともあり、総額で前年度決算より八、〇九九万円の減額となりました。支出は、中期計画に基づく建物外部改修工事など約五、〇〇〇万円の修繕を計上しています。また感染症対策費を縮小したことや、退職関係の人員費や奨学費の減額などにより、支出総額は前年度決算と比べて六、〇一二万円の減額となりました。なお経費削減は継続としました。教育環境の整備として、体育館トレーニングルーム冷房設置、教室用電子黒板、空気清浄機、トイレ改修工事などを予定しています。予算収支の支出超過は前年度決算と比較して二、〇八六万円増額となりました。

予算執行にあたり、事業経費の見直しや効率的・効果的な執行に取り組み、決算では支出超過の減額を図りたいと考えています。

(事務局)

2022年度事業活動収支計算書および2023年度同予算書（敬和学園大学）

(単位：円)

		2022年度決算額	2023年度予算額	差 異
教育活動収支	収入			
	学生生徒等納付金	742,012,000	712,239,000	29,773,000
	手数料	11,409,875	11,275,000	134,875
	寄付金	17,375,081	16,429,000	946,081
	經常費等補助金	187,377,845	179,700,000	7,677,845
	付随事業収入	398,325	564,000	△ 165,675
	雑収入	39,282,954	4,624,000	34,658,954
	教育活動収入計	997,856,080	924,831,000	73,025,080
	支出			
	人件費	576,028,869	526,556,000	49,472,869
教育研究経費	391,472,586	375,632,000	15,840,586	
管理経費	106,017,984	112,013,000	△ 5,995,016	
徴収不能額等	0	0	0	
教育活動支出計	1,073,519,439	1,014,201,000	59,318,439	
教育活動収支差額	△ 75,663,359	△ 89,370,000	13,706,641	
教育活動外収支	収入			
	受取利息・配当金	62,376	50,000	12,376
	その他の教育活動外収入	995	0	995
	教育活動外収入計	63,371	50,000	13,371
	支出			
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額	63,371	50,000	13,371	
經常収支差額	△ 75,599,988	△ 89,320,000	13,720,012	
特別収支	収入			
	資産売却差額	238,913	0	238,913
	その他の特別収入	13,883,525	6,166,000	7,717,525
	特別収入計	14,122,438	6,166,000	7,956,438
	支出			
	資産処分差額	3,307,445	500,000	2,807,445
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	3,307,445	500,000	2,807,445
	特別収支差額	10,814,993	5,666,000	5,148,993
	(予備費)	0	2,000,000	△ 2,000,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 64,784,995	△ 85,654,000	20,869,005	
基本金組入額合計	△ 39,157,524	△ 37,393,000	△ 1,764,524	
当年度収支差額	△ 103,942,519	△ 123,047,000	19,104,481	
前年度繰越収支差額	△ 587,782,470	△ 698,948,731	111,166,261	
翌年度繰越収支差額	△ 691,724,989	△ 821,995,731	130,270,742	
(参考)				
事業活動収入計	1,012,041,889	931,047,000	80,994,889	
事業活動支出計	1,076,826,884	1,016,701,000	60,125,884	

2022年度資金収支計算書および2023年度同予算書（敬和学園大学）

(収入の部)

(単位：円)

科 目	2022年度決算額	2023年度予算額	差 異
学生生徒等納付金収入	742,012,000	712,239,000	29,773,000
手数料収入	11,409,875	11,275,000	134,875
寄付金収入	25,440,074	22,095,000	3,345,074
補助金収入	191,408,845	179,700,000	11,708,845
(国庫補助金収入)	178,702,205	167,150,000	11,552,205
(地方公共団体補助金収入)	12,706,640	12,550,000	156,640
資産売却収入	238,914	0	238,914
付随事業・収益事業収入	398,325	564,000	△ 165,675
受取利息・配当金収入	62,376	50,000	12,376
雑収入	39,482,063	4,624,000	34,858,063
前受金収入	184,946,500	180,900,000	4,046,500
その他の収入	252,412,196	57,007,000	195,405,196
資金収入調整勘定	△ 239,751,752	△ 186,679,000	△ 53,072,752
前年度繰越支払資金	1,078,887,392	1,002,690,392	76,197,000
収入の部合計	2,286,946,808	1,984,465,392	302,481,416

(支出の部)

(単位：円)

科 目	2022年度決算額	2023年度予算額	差 異
人件費支出	573,792,709	526,556,000	47,236,709
教育研究経費支出	336,687,055	322,717,000	13,970,055
管理経費支出	94,935,223	101,145,000	△ 6,209,777
施設関係支出	23,872,693	21,331,000	2,541,693
設備関係支出	24,096,159	9,916,000	14,180,159
資産運用支出	7,406,879	7,374,000	32,879
その他の支出	284,247,327	71,593,000	212,654,327
予備費	0	2,000,000	△ 2,000,000
資金支出調整勘定	△ 33,622,178	△ 45,109,000	11,486,822
翌年度繰越支払資金	975,530,941	966,942,392	8,588,549
支出の部合計	2,286,946,808	1,984,465,392	302,481,416

# Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.67

コロナ禍を乗り越える楽しい敬和祭に!

国際文化学科 3年  
宮路 晴夏



昨年の敬和祭実行委員（中央が宮路さん）

## 一戸信哉先生のコメント

宮路さんは多才な学生です。大学のラジオ番組ではMCと編集を担当し、さらに新潟県域ラジオ局の学生ADとしても活躍しています。映像制作では、北海道で開拓移民の歴史についてインタビュー取材をしました。さまざまな活動に取り組みながらも、敬和祭の実行委員長として献身的に働き、多くの仲間にも支持されています。学生生活後半、彼女が学びの集大成にどう取り組むのか楽しみです。



私は、昨年の敬和祭実行委員長を務めさせていただきました。昨年の敬和祭のテーマは「Young, wild and free」、3年ぶりに学生以外のお客さまにも来場していただき、学生屋台も復活できました。また、卒業生が代表を務める万代太鼓の華龍さまをゲストにお迎えし、計7店舗のキッチンカーにご出店いただきました。実行委員は1・2年生のみでしたが、大成功で終わることができました。

そして、今年の敬和祭実行委員長も任せていただけることになりました。1年に1度の貴重なイベントを任せていただきうれしいです。実は、すでに実行委員会は1月から活動をしており、最高の敬和祭に向けて準備しています。昨年の反省を生かしつつ、在学生はもちろん、卒業生や地域の方々に遊びに来てもらえるようなお祭りにしたいです。たくさんのお祭りに関わってもらい、私たちも来場される皆さまにも楽しんでいただきたいと思います。期待しててください!!! 実行委員一同、ご来場お待ちしております。

第33回敬和祭の  
ご案内はこちら



敬和学園大学の最新情報

敬和学園大学

検索

www.keiwa-c.ac.jp

